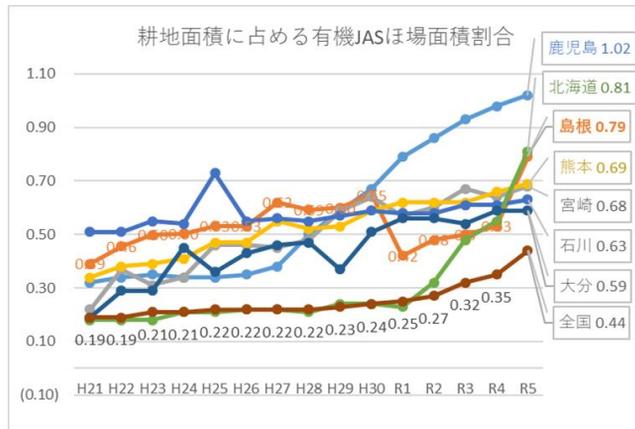


## 概要

- 有機JAS認証ほ場の拡大を進めるために、農業技術センター技術普及部（農業革新支援センター）では、県庁・島根有機農業協会（認証登録機関）と連携し、普及指導員が農家へ指導を行う際の参考資料を作成した。
- 併せて農業者への有機JAS認証申請書作成支援技術向上のため、認証取得に関する研修を実施した。
- その結果、耕地面積に占める有機JAS認証ほ場の面積割合が0.42%（155ha：令和元年）から0.79%（284ha：令和5年）に増加した。



## 具体的な成果

## 1 有機農業を担当する普及指導員の有機JAS認証の理解度上昇

- 令和3～6年の研修に延べ50名が参加し、習得度評価（10段階評価）では研修前後で約3.0ポイント高くなった。「記載例や記入方法など大変参考になった」「帳票作成など現場で実践する機会を作ってほしい」という前向きな意見が出るなど、有機JAS認証への理解が進んだ。

## 2 有機JAS認証に係るQ&amp;Aの掲載件数増加による取組の効率化

- 「有機JAS認証に係るQ&A」を毎年更新・追記し情報を蓄積することで、現地での指導が効率的にできるようになった。

## 3 有機JAS認証ほ場面積の増加

- 耕地面積に占める有機JAS認証ほ場の面積割合が0.79%（284ha）（2024年6月農林水産省発表）となり、全国第3位となった。

## 普及指導員の活動

令和2年～6年度

- 有機JAS認証取得希望農家を指導する際に参考となる資料を、県庁・島根有機農業協会と協力し、普及指導員が活用できる参考資料を作成し、専門的知識の向上につながるように支援

令和3年～6年度

- 作成した参考資料を使用して、認証取得に係る考え方や申請書類の作成、現地で確認するポイント等の理解を深めるための研修を開催
- 研修では知識を広げると同時に指導上の悩みや問題点について共有し、アドバイスにより不安や問題を解消

## 普及指導員だからできたこと

- ・ 農業革新支援センターとして、普及指導センターや行政、認証登録機関のパイプ役となり、有機JAS認証取得に向けた技術相談に対する回答・助言、その内容の情報共有を行うことができた。
- ・ 農業革新支援センターとして、普及指導員の認証取得に関する資質向上を図り、その指導により農業者の有機JAS認証が進んだ。

島根県

## 有機 J A S 認証取得に向けた普及指導員の資質向上

活動期間：令和 2～6 年度

### 1. 取組の背景

島根県は、耕地面積に占める有機農業（有機 J A S 認証ほ場）の割合が全国上位で、平成 24 年には県立農林大学校に「有機農業専攻」、農業部（普及指導センター）に「有機農業担当者」を設置するなど先進的な取り組みを進め、新規就農者の確保や有機農業の取組を支援してきました。

令和 2 年 4 月に策定された「島根県農林水産基本計画」では、「有機農業の拡大」を重点推進事項に位置づけ、有機農産物の生産拡大と有機農業の担い手確保を推進しています。その基本計画では、5 年後の目指す姿として「耕地面積に占める有機 J A S 認証ほ場の面積割合 1 % 以上の実現」を掲げています。

【有機 J A S 認証ほ場の耕地面積割合（有機 J A S 認証ほ場面積）】

2019 年（現状） 0.4%（155ha） ⇒ 2024 年（目標） 1%（370ha）

県では有機 J A S 認証取得を推進するために、認証手数料等経費等の補助、生産者向け講習会、技術実証等の支援を強化してきました。

また、農業技術センター技術普及部（農業革新支援センター）では、普及指導員が有機 J A S 認証取得のための専門知識を高めることが急務であると考え、その取組を進めました。

### 2. 活動内容（詳細）

#### （1）普及指導員向け参考資料の作成

当時、普及指導員が J A S 認証の取得希望農家を指導する際に参考となる資料や情報がなかったため、県庁、島根有機農業協会（J A S 認証登録機関）と協力して資料を作成し、普及指導員の専門的知識の向上につながるよう支援していきました。

- ・島根県版の「適合資材リスト」及び「有機 J A S 認証に係る Q & A」の作成及び更新（令和 2 年）
- ・「有機 J A S 認証及び申請に関する Q & A（農林水産省作成版の抜粋）」及び「申請書類記入例」の作成（令和 3 年）
- ・「申請書類記入例 G A P 対応版」の作成（令和 4 年）
- ・「内部規程作成ポイント」及び「格付規程作成ポイント」の作成（令和 5 年）
- ・「認証取得に向けたチェックポイントリスト」水稻編及び野菜編の作成（令和 6 年）

#### （2）普及指導員対象の研修会の開催

普及指導員向け参考資料を使い、認証取得に係る考え方や申請書類の作成、現地で確認するポイント等の理解を深めるための研修を開催しました。研修

では知識を広げると同時に指導上の悩みや問題点を共有し、アドバイスにより不安や問題を解消していきました。

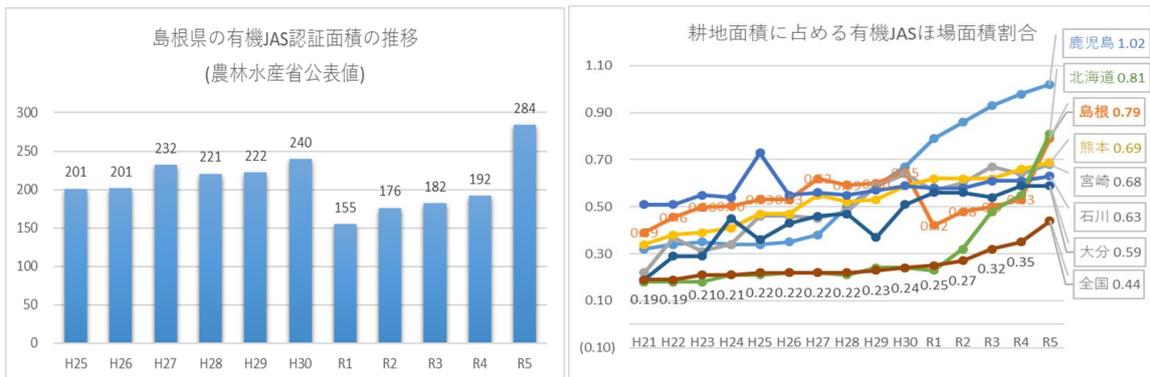
- ・「認証までの流れ」の講義、「申請資料作成時のポイントと考え方について」の演習
- ・「内部規程作成のポイント」や「申請者が見落としがちなヒヤリハット事例等」、「模擬判定（判定員の視点で気をつけるポイントや注意点について）」の講義やグループ演習
- ・「申請前に現地で確認するためのチェックポイント」の演習、「模擬判定」の講義とグループ演習



研修会の様子

### 3. 具体的な成果（詳細）

- (1) 有機農業を担当する普及指導員の有機 J A S 認証制度の理解度上昇  
令和 3～6 年の研修に延べ 50 名が参加し、習得度評価(10 段階評価)で研修前後で約 3 段階高くなりました。  
「記載例や記入方法など大変参考になった」、「帳票作成など、現場で実践する機会を作っていきたい」という前向きな意見が出るなど、有機 J A S 認証への理解が進みました。
- (2) 有機 J A S 認証に係る Q & A の掲載件数増加による情報の蓄積と取組の効率化  
「有機 J A S 認証に係る Q & A」を毎年更新・追記（約 60 件）し、情報を蓄積しました。この活用により、取組の効率化を図ることができています。
- (3) 有機 J A S 認証ほ場面積の増加  
耕地面積に占める有機 J A S 認証ほ場の割合（有機 J A S 認証ほ場面積）0.79%（284ha）（2024 年 6 月農林水産省発表）となり、全国第 3 位となりました。



#### 4. 農家等からの評価・コメント（A氏）

育苗場所やほ場における周辺からの使用禁止資材の飛散・流入対策や収穫以降の行程管理における非有機農産物の混合防止対策の考え方をわかりやすく説明してもらい、有機JAS認証制度の理解が深まりました。

#### 5. 普及指導員のコメント（農業技術センター技術普及部・主席農業普及員・大野愛理）

農業革新支援センターとして、普及指導センターや県庁、認証登録機関のパイプ役となり、有機JAS認証取得に向けた技術相談に対する回答・助言、その内容を普及指導員と情報共有することで、生産者の有機JAS認証の取得支援が効率的にできました。

#### 6. 現状・今後の展開等

##### (1) 参考資料の内容更新

有機JAS認証に係るQ&Aや作成した普及指導員向けの参考資料は、随時更新し内容を充実させていきます。

##### (2) 有機農業を指導できる普及指導員の育成

島根県では有機農業の栽培面積や品目の拡大を進めており、有機JAS認証取得者が増加する見込みですが、有機JAS認証取得支援の経験が少ない普及指導員が多いため、引き続き人材育成を進めていくこととしています。